

國語讀本

尋常小  
學校用

卷二



K120.8

83

2

檢定申請本



文學博士坪内雄藏校閱  
高知縣教育會編纂



# 國語讀本

尋常小  
學校用 卷二

東京 合資會社 富山房發兌

ま と ん

きん  
とき  
と  
くま。

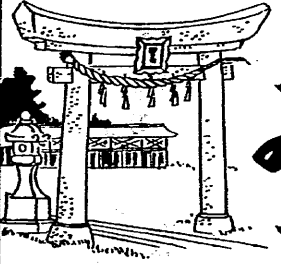


り く き

きく  
きり。



つ み こ る



まつり。  
みこし

とりゐ



し ぎ は ぐ

しぎ

と

はまぐり。



園言詩不 兒童用 卷三 會社石印片讀成



さ さ の た む

ささ

のは。

かたつむり。



ね に め

かきの

たね

と

にぎりめし。





國語教科書 第一巻 七 合資言山房出版

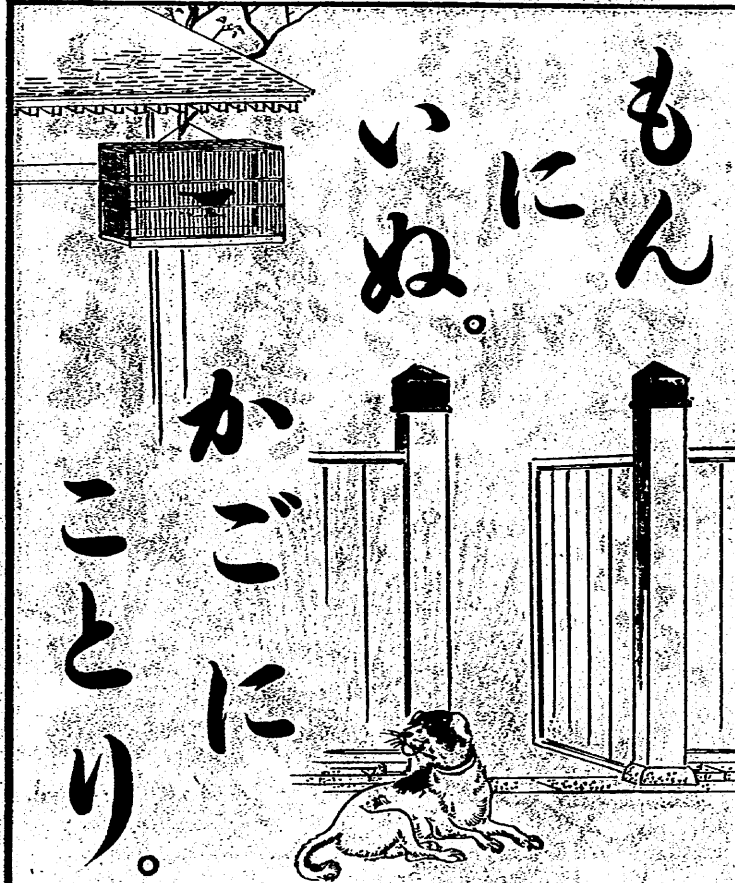
け 系 ち

はちに  
うゑき。  
いけに  
みづぐさ。



ご ぬ い も

もん  
に  
いぬ。  
かごに  
ことり。



國語教科書 第一巻 七 合資言山房出版



ぢれえだを



はなさか  
ぢぢぢ  
かれえだに、  
はなを  
さかせる。



ざるがわ

みけとざる。  
かにが  
はさむ。  
みけが  
さわぐ。



新編 忠臣蔵 第八回

目録 上巻 六 兒童用

び は ぴ や ぼ

一ぼんのやなぎ。

一ぴきのかはづ。

いくども

とびつく。



ぜ す す は っ

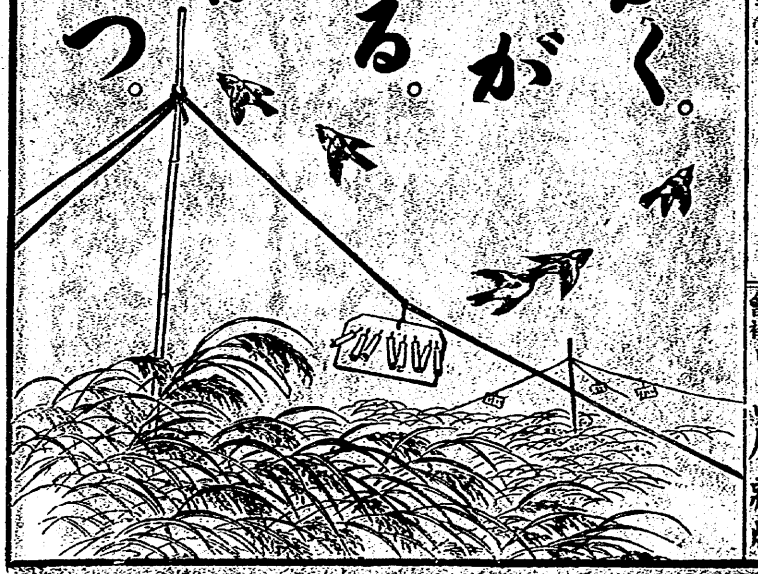
かぜがふく。

なるこが

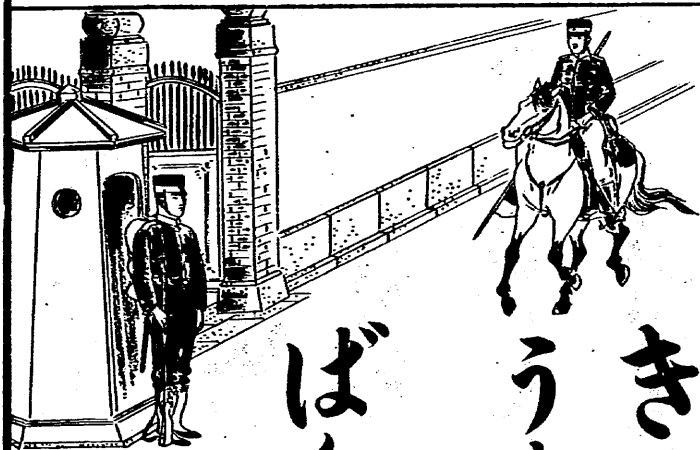
なる。

すずめが

はつとたつ。



そ へ へ



まへいが、  
うまにのつて  
くる。

ばんぺいが、  
もんの  
そばにゐる。

と ち ぞ お

とーきちるー。

ぞーりを

もつ。

おともを

する



ぶ

あそぶときは、

よくあそべ。

べ

はげむ

ときは、

よくはげめ。



ひらがな

いろはにほへとちりぬ  
るをわかよたれそつね  
ならむうるのおくやま  
けふこえてあさきゆめ  
みしゑひもせすん



だいに

ほ

おほきなとりが

へ

いはのうへに

ゐます。

これは、

わしであります。

鳥獣考 水川 十三 金葉集 鳥獣考 水川

ギョ キヤ シヤ チヤ



ダイ三

コノオモチヤノバシヤヲ

ゴランナサイ。

オキヤクモ、

ソツテ牛マス。

ギョシヤモ、

ツイテ牛マス。

だいニ

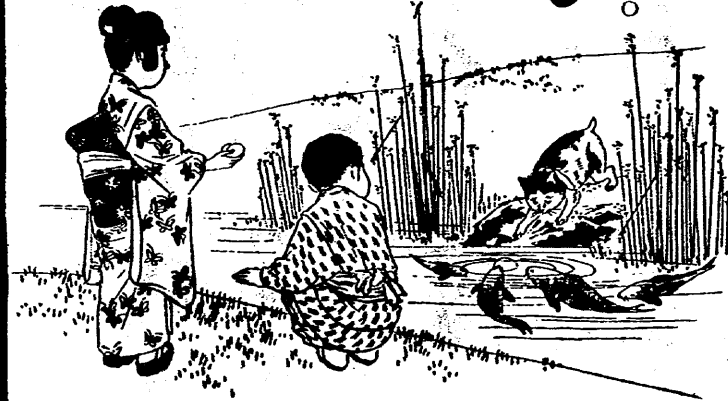
いけにひごひ。

ひごひが、

ふをくふ。

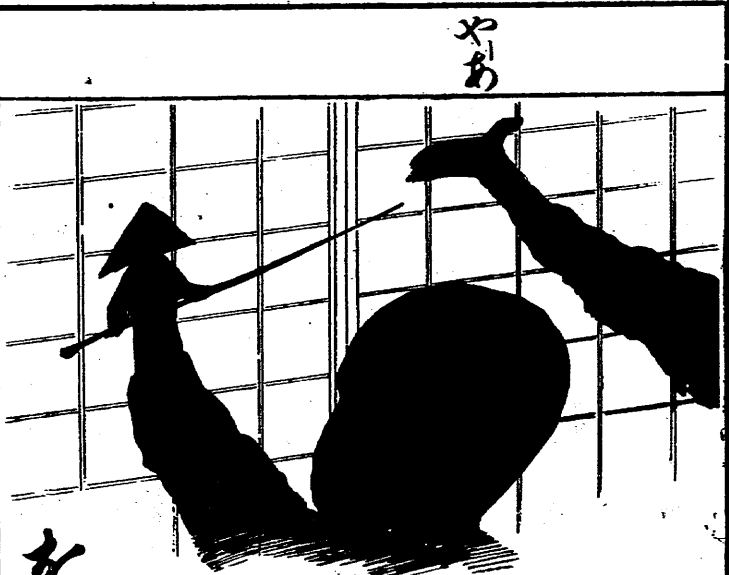
あれねこが

ねらつてゐる。



だい四

よー  
あ の よー な  
た るー さ ん が  
あ れ、ま た、  
こ し ら へ ま し た。  
あ ん な と り を  
じ ろー さ ん が



と り さ し を  
こ し ら へ ま し た。  
や あ、た るー  
さ ん の か ほ  
が、お ほ き く  
う つ つ た。  
を か し い。を か し い。

だい五

こゝは、五じよーのはしでござい  
ます。

うしわかとべんけいとが、はし  
のうへで、たゝかつてゐます。

あぶ  
うしわかがあひのまるのあぶぎ  
をなげつけました。



せう

べんけいの、あの  
にがいかほを  
ごらんなさい。

どちらが  
かつて

ございま  
せうか。



# ダイ六

カウ  
人

ムカウカラウマニノツタ人が  
 キマス。  
 アルイテキル人が、テヲアゲテ  
 レイヲシマシタ。  
 アレハ、フタリナガラ、リクグン  
 ノグンジンデゴザイマス。

ドウ

ドウシテ、

リクグント

イフ

イフコトが

ワカリマス

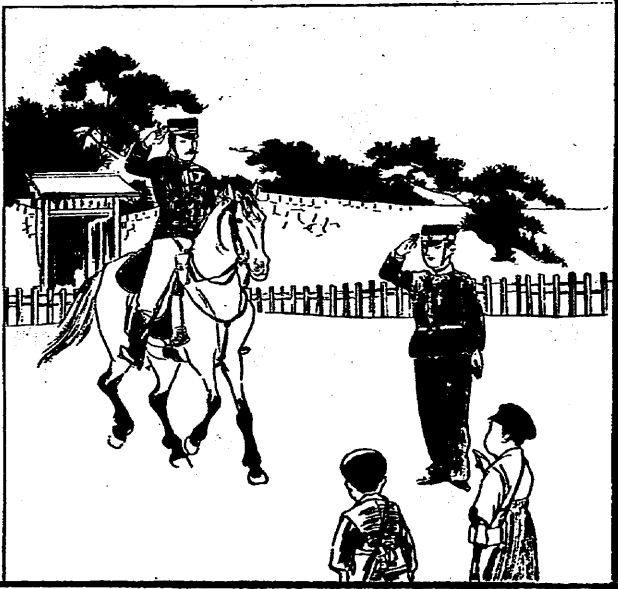
カ。

ボー

ボーシノ

コー

カツコーデ、ワカリマス。





だい七 (練習文)

としのはじめは、  
めでたやな  
めでたやな  
どこ  
いへにも、  
はたたて、

しめなははって、  
もちついて、  
はねつく、まりつく、  
かるたとる。  
としのはじめは、  
おもしろや。  
おもしろや。

だい八

大  
大きなきのうろのなかに、人が  
かくれてゐます。

りっぱなかぶとをかぶつてゐる  
しど人は、たいしょーでございませう。  
これは、よりともといふ人が、  
いくさにまけて、かくれてゐる

ところぞ

ございます。』

木  
木のそば

に、ゆみを

もつて、たつてゐる

人は、いま、さがした

きたんきでございます。



# ダイ丸

カクレンボヲイタシマセウ。  
 ワタクシハオニニナツテ、コノ  
 下木ノ下ニタツテヨリマス。ハヤク  
 オカクレナサイ。

ラウ  
 オヤ、ドコダラウ。ア、ミエタ。  
 中ソレソレ、モノオキノ中ニオチヨ

サシガキマス。  
 カンザシノビラク  
 ガミエマシタ。



ダイ十

ミテキルウチ

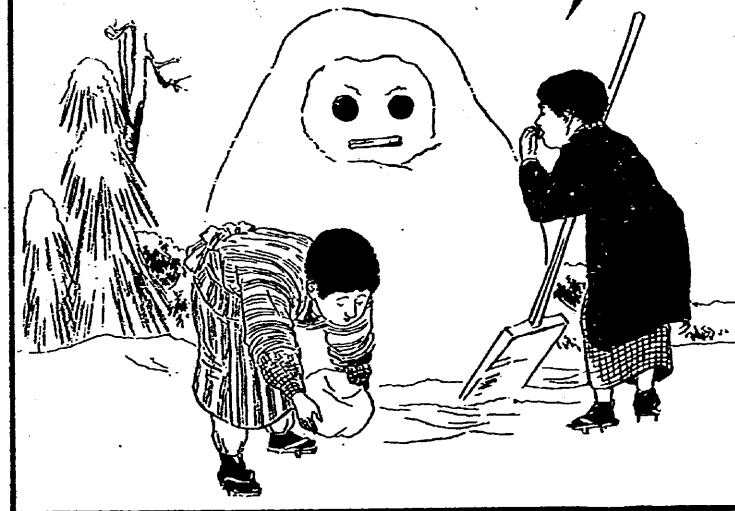
ニ、ユキガ

ツモツテ、

ジュー  
ニハジューノ

木ガ、ハナノ

サイタヨー



ニナリマシタ。

太  
太ロートジロートガ、ユキダルマ

ヲヨシラヘ

マシタ。アレ

ツメタイト

ミエテ、イキデ

手ヲアタ、メテ



手

牛マス。

オハナハ、エキデ、ウサギヲ  
目  
コシラヘマシタ。アノ、アカイ目ハ、  
ナンテンノミデゴザイマス。

だい十一 (練習文)

わたくしは、目やくちは大きいが、  
せいはひくい。わたくしには、手も

あしもない。わたくしは、あかい  
きものを、みるがかくれるほどに、  
あたまからかぶってゐる。あしは  
ないが、ころがっても、すぐにおきる。  
手はないが、なげられても、すぐ  
にたつ。みなさん、わたくしのな  
を、ごぞんじですか。



だい十二

かぜよ、ふけく。

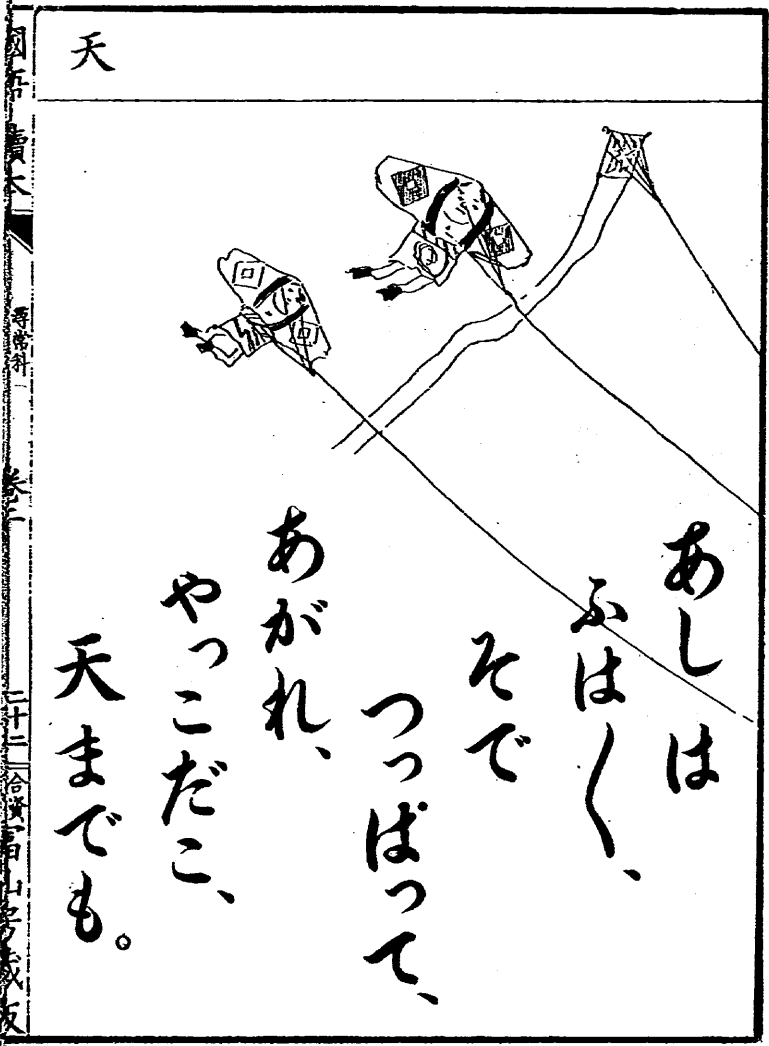
はるかぜ、

ふけよ。

あがれ、

やつこだこ。

どこまでも。



天

あしは

ふはく、

そで

つつばって、

あがれ、

やつこだこ、

天までも。

だい十三

川  
 むかし、ちとばとが  
 ゐました。あるとき、ばとが、川で  
 せんたくをしてをりますと、大  
 きな桃モモがながれてきました。  
 ばとは、よろこんで、ひろって  
 かへりますと、その桃の中から

子 郎



をとこの子が  
 できました。  
 ちとばと  
 はよろこんで、  
 桃太郎となを  
 つけて、そだて  
 ますうちに、桃



太郎は、だんく大きくなつて、  
力もつよくなりました。

日ある日、ちとばとにむかひ、

「わたくしはおにがしまへ、おに

ひよーたいちにゆきますから、ひよー

ろーをこしらつてください」と

いひました。ちとばは、いさまし

がつて、きびだんごをこしらへて  
やりました。

だい十四

桃太郎は、きびだんごを、ふくろ

入に入れて、こしにつけて、いさま

しくでかけますと、一ぴきの

さるが、「桃太郎さん、桃太郎さん、

日本

「どちらへ」といひ  
ました。  
「おにがしまへ」  
おにたいぢに」  
「おこしのもものは、  
なんでございますか。  
これは、日本一のきび



だんご。」一つください。おとも  
いたしませう」といひました。  
そこでだんごを一つやっつ、さる  
を、ともにつれて、ゆきますと、  
犬「こんどは、犬がきました。これにも、  
だんごをやっつ、ともをさせて、  
ゆきますときじがきました。

これにも、だんごをやつて、ともの中にくはへました。

門  
それから、おにがしまへわたり  
ますと、おにどもは門をしめて、  
入れませぬ。桃太郎は、すぐ門を  
やぶつて、おし入りました。

さるも、犬も、きじも、あとから、



おし入り、出る  
おに、出るおに  
をうちたふし  
ました。  
おにどもは、みな  
かなはず、小おに  
は、みなにげて

K120.8

大  
しまひ、おにの大しよーも、こー  
さんしました。  
そこで、桃太郎はいろくの  
たからものをとって、めでたく、  
わがいへにかへりました。

巻二をはり

明治三十四年十月三十一日印刷  
明治三十四年十一月三日發行

(國語讀本 尋常小奥附)

卷ノ一	定價金八錢	卷ノ五	定價金拾貳錢
卷ノ二	定價金八錢	卷ノ六	定價金拾參錢
卷ノ三	定價金九錢	卷ノ七	定價金拾參錢
卷ノ四	定價金拾壹錢	卷ノ八	定價金拾四錢



發兌元

(明治廿九年六月發立)

編纂者 代表者 發行者 代表者 印刷者 印刷所

高知縣教育會  
藤崎朋之  
東京市神田區真神保町九番地  
合資會社 富山房  
合資會社 富山房社長  
坂本嘉治馬  
東京市日本橋區藥研堀町三十三番地  
仁科衛  
同所  
厚信會  
電話浪花一四六番  
富山房  
電話本局 電報 ヤマフ  
電話本局 電報 ヤマフ  
電話本局 電報 ヤマフ

